

プログラム番号 3001D

**教学IRデータを適切に取り扱うために
一組織または個人でできることを考える一****■講師**

竹中 喜一（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特任助教）

平成 16 年 3 月大阪大学人間科学部卒業後、民間企業でのSE等の業務を経て、平成 20 年関西大学入職。入職後から 10 年間FD、SD、教学IR等を担当。業務と並行して名古屋大学大学院で高等教育論、大阪大学大学院で教育工学を専攻し、大学職員論をテーマに研究。博士（人間科学）。平成 30 年 4 月より現職。

■プログラム概要

教学IRを進めるにあたって、学内にあるデータの収集や活用は不可欠です。その収集や活用にあたっては適切にデータを取り扱う必要があります。その理由には少なくとも「個人情報漏洩などのリスク回避」、「データを取り扱う組織が信頼できることの明示」といったものがあります。

本研修ではまず、その必要性について確認したうえで、データを適切に取り扱うための①基本的なルールや留意点、②個人でできること、③組織的に行うこと、を中心に扱います。講義での知識習得とワークを通じて、所属する組織においてデータの取扱が適切かを確認したり、取扱を改善したりするヒントを得る機会としたいと思います。

本研修は、主に教学IRの実務担当者を対象と想定していますが、学内にあるデータを取り扱う部署（例：情報システム部門や総務・企画系部門、教務・学生支援部門の職員）でテーマにご関心をお持ちの方の受講もお待ちしております。

■準備物や事前課題

所属部署あるいは大学におけるデータの取扱に関連する文書（規程、ガイドライン）の内容についてお尋ねしますので、予め確認をお願いします。

■主な受講対象

- ・ 教学IRの実務を担当する職員
- ・ 学内にあるデータを取り扱う部署の職員

■本プログラムの到達目標

1. データを適切に取り扱うための基本的なルールや留意点を説明できる。
2. データを適切に取り扱うために求められる姿勢と行動を説明できる。
3. 所属大学でのデータの取扱のすぐれた点と課題を列挙することができる。
4. 所属大学でのデータの取扱の改善を提案できる。

■日時・場所

日時：平成30年8月30日（木）10：00～12：00

場所：香川大学幸町北キャンパス